

諫早高校と議員との意見交換会の要旨

○参加者 議員：坂口議員、大倉議員 学生：諫早高校2年生2名

○発表テーマ：長崎SDGsについて

○意見交換会要旨

(大倉議員)

感想ですが、まず感心したのが自らアンケートを取って、データをしっかりと示して、問題点、課題点をあぶり出し、提案まで持っていったところ、非常にいいなと思った。

1個目が、いわゆる温暖化対策などに関することで、2個目が子ども食堂などに関する貧困問題でしたが、2個目の子ども食堂についてはもっと説明したかったんじゃないかなと思ったんですが。

(生徒)

時間制限もあり、最後の方は簡略化して説明しました。子供食堂応援隊っていうシステムモデルですが、こども食堂って、お金も人手も野菜もないみたいな状況がありますが、応援したいっていう企業がたくさんいます。そこに、行政に入ってもらうことで、廃棄されるような野菜を購入すれば環境へのアプローチもできるし、つながりが円滑になりやすいと思い、このようなシステムを提案しました。

付加価値をつけることで利用しやすくする狙いもある。

(生徒)

子ども食堂については、お金がない人たちしか行けないとか、行く人はすごくお金に困ってる人たちだっていう偏見がまだあるので、いろんな人の協力を得ながら活動を増やすことで、このような偏見をなくしつつ、誰でも利用できる場所であることを発信できたらと考えている。

(大倉議員)

まだまだ偏見が根強いところがあるかもしれませんね。子ども食堂の数自体も長崎はそう多くないってこともあるし、まずはやっぱり伝えることが肝心で、まだそこが足りていないように感じる。

(生徒)

情報が少ないという問題もあります。私達みたいな活動家がやってることを、聞いていただける機会を作ってもらえるといいんですけども、問題を解決するには情報が必要ですが、情報が足りていないと感じるので、行政と情報提供しあえるようなシステムを構築できたらいいと思う。

(坂口議員)

環境問題についてのアンケートを見させていただいて、情報が行き渡っていない

ところもあるのかなと思う。それを踏まえた提案をされてるので、具体的に、どう進捗させるよう改善していくか、そのために何ができるのか、そして、それを県民の皆さんにどう伝えるのかっていうのを考えていかないといけないのかなと思う。

子ども食堂については、国においてもこどもまんなか社会と捉えて、支援をしている。行政と連携してとのことなので、まだまだ偏見が多いということであれば、広報啓発活動とかしてもらってもいいと思う。

(生徒)

環境問題に関する提案の中で、大々的に情報を公開という部分は、例えば、マスメディアのテレビとかラジオとか、あと新聞を使うとかもそうですし、あと、紙面を見やすくするなど、情報がより伝わりやすいような工夫をしていただきたい。

(大倉議員)

県としては、公共交通機関の利用を促す取り組みやエコ活動に関する支援など行っているんですが、やってはいるんだけど伝わっていないという事実にも目を向けて、伝え方を考えていく必要があると思う。

(坂口議員)

今、例えば福祉の部分では地域包括ケアシステムっていう極力住民でできることは住民の皆さんでやっていただこうという動きがあり、実際に地元で動いてくれる人がいればそれに対する広報とか、お金の支援とかしますけれども、なかなか行政は直接やろうとはしない時代でもある。

(生徒)

福祉とか地域の問題は、1個の部署にとどまらないのに、部署毎に通さなければいけない。部署毎に分かれるのは仕方ないが、1件書類を通すだけでも時間がかかるので、本当に必要な人たちに届くのに時間がかかると感じている。

(坂口議員)

本当にありがとうございました。いろんなご意見をお聞かせいただき、有益な時間を過ごせました。やっぱり若い方がこの世の中に深い関心を持って、真剣に考えるということ、これがやはりより良い未来作りに繋がっていくのではないかなと今日は本当に思いました。